

【氏名】 加藤 隆宏

【所属大学院】(助成決定時)

Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg, Seminar für Indologie (Germany)

【研究題目】新資料に基づくインド聖典の校訂出版と翻訳研究

―― バースカラ作『ブラフマ・スートラ注解』――

【研究の目的】

本研究は、新資料にもとづくインド聖典の校訂出版と世界初となる翻訳研究により、インド思想史上極めて重要でありながらこれまでまったく研究されることのなかった哲人バースカラの思想を明らかにするものである。

聖典『ブラフマ・スートラ』に対する注釈書『バースカラ注解』の初版が出版されたのは1915年の事である。しかし、その版本が不完全であるため、この重要な聖典に関する研究が長年立ち後れてきた。当時シカゴ大学の故ファン・バイトネン教授は1961年に校訂版の出版を公表するが、何らかの理由でその資料は出版されずにお蔵入りとなってしまった。40年以上を経て最近になって発見されたこの未出版の資料を再校訂し、出版公開するというのが本研究の目的である。

故ファン・バイトネン教授が残した未出版の資料は、かなりの手直しを要するものの、版本の不完全さを解消する第一級の資料である。したがって、この資料の出版公開・翻訳研究は、これまでの当該分野に関する研究不足を解消してさらなる研究を促すと同時に、インド思想史および関連分野の研究に資する重要な資料となりうるものである。

【研究の内容・方法】

未公開の新資料(以下、VB)は420ページからなり、手書きのデーヴァナーガリー文字による本文とタイプライターのローマ字による脚注により構成され、本文・脚注、また欄外部分には、第三者による手書きの加筆修正が施されている。手書きの本文は複数の手からなるもので、後の挿入しき手書きの加筆修正部分があるいは故ファン・バイトネン教授の手によるものとも考えられるが、詳細はまったく不明である。資料の完成度次第ではVBをそのまま印刷出版することも考えられるが、作業上の単純ミスを含む明らかな編集ミスが目立つこと、第三者による加筆修正がそのまま書き込まれており、そのままでは本文の判読が困難であること、また、40年以上前に作成された資料には、現在の当該分野の学術水準から見てその編集方法や方針にやや不備が見られることなどといった理由から、VBを現在の水準に即した形で再編集し、より有意義なものとして公開するべきであるという結論に達した。

実際の作業工程としては、まず、残された資料とそれが基づいた一次資料との比較確認から始める。具体的には、文字の掠れ、汚れなどにより判読が著しく困難な箇所について、VBが基づいたサンスクリット古写本を参照しつつ、適宜修正を加えていく。手書きの修正部分は複数の手からなっており、どれが編集者の最終的な決定であるのか判断しかねるものも多々あるが、これらは修正後の読みを統一的に採用する。また、VBには編集上の明らかなミスと思われるものも混在するため、これらについて申請者自身による再修正が加わるこ

となる。資料の修正に際しては、サンスクリット語による本文の精密な読解をもとに、他の文献に見られる平行議論、平行表現などあらゆる可能性をすべて参照する。

この修正作業では修正前と修正後の読みが脚註として欄外に付され、VB に残されたすべての情報が読者に一目瞭然となる体裁がとられる。この方法は、修正後の読みに問題があると読者が判断した際に修正前のそれと比較することができるという点で、とりわけ学術的な目的に大きく資するものとなる。

次の段階では、完成したテキストをもとに翻訳を作成していく。きちんと文脈を把握しながら試訳を施すことで、テキストの最終的な読みが確定されていく。この作業を経て、本文献の完全版が準備されることになる。

#### 【結論・考察】

本研究の最大の成果は、大変貴重な未出版の資料の内容を明らかにし、それを学術的に再生する準備的な作業をほぼ終えることができたことである。また再校訂作業を通じて、VB の問題の所在を明らかにし、どのような方針でこれらの問題をクリアしていくのかを具に検討した。作業を進めるに従って、VB が参照したと主張する写本の異読情報の多くが校訂本に反映されていないという事実など、新たな問題が明らかとなったのも本研究の成果の一つであると言えよう。今後の課題は、VB が参照した写本をさらに取り寄せ、これらとの校合を通じて VB の内容を再精査することである。本書全体を再校訂、翻訳し、完全版として出版するにはいましばらく時間が必要で、完成に向けて現在鋭意作業を継続中である。